

令和6年度
第2回西脇市総合教育会議
議事録

令和6年11月18日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和6年11月18日（月）午後1時30分～

2 開催場所

西脇市役所 大会議室

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	遠藤一博
教育委員	岸本みのり	教育委員	柴垣美紀
教育委員	藤尾寛	教育委員	和多眞乗

(2) 事務局

市長公室長	早崎育子
政策推進課政策担当主幹	澤田康生
教育管理部長	高橋芳文
教育創造部長	足立英則
教育委員会参事	竹内誠
学習環境規模適正化推進担当次長	鈴木成幸
生涯学習課長	長谷川広幸
学校教育課長	衣川正昭
学校教育課主幹兼教育研究室長	宮下晋一

4 傍聴者

6人（途中入場1人）

5 会議の概要

- ・ 市長あいさつ
- ・ 協議・調整事項
 - (1) 西脇東中学校・黒田庄中学校の統合校に係る活用施設の決定等について
- ・ その他

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、令和6年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日、事務局を務めさせていただきます教育管理部長の高橋でございます。よろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして片山市長から御挨拶をいただきます。市長、よろしく願いいたします。

◎市長

開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、第2回総合教育会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

総合教育会議は、教育委員会からの要望により開催するものでございます。教育委員の皆様方におかれましては、日頃から本市教育行政の推進に格別のご支援とご尽力を賜っておりますことを心から感謝を申し上げます。

さて、今回の総合教育会議は、西脇東中学校、黒田庄中学校の統合に係る活用施設の決定等についての報告となります。振り返りますと、教育委員会の皆様方には、令和2年度に検討会議を立ち上げていただき、足かけ4年強の歳月をかけて、学校学習環境規模適正化推進計画をまとめていただきました。ご尽力いただきまして本当にありがとうございます。新聞等でも報道されておりますが、大変厳しい状況の中でご判断をさせていただいたと感じております。これから、本計画に基づき、児童生徒のよりよい教育環境の整備を進めて参りたいと考えておりますので、本日の会議も有意義なものになりますこと、お願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしく願いします。

○事務局

ありがとうございました。この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては、西脇市総合教育会議運営要綱に基づきまして、片山市長にお願いしたいと思っております。市長、よろしく願いいたします。

◎市長

それでは、まず、本日の傍聴希望者数を事務局から報告願います。

○事務局

本日の傍聴希望者は、5名おられます。

◎市長

ただいま、事務局から報告がありましたとおり、本日の傍聴希望者数は、5名となっております。傍聴要綱で定める定員が原則5名となっておりますので、このまま会議の方を進めていきたいと思っております。

◎市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。和多委員、柴垣委員、両氏にお願いします。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎市長

引き続きお手元の次第に従いまして進めさせていただきます。次第2の協議・調整事項(1)、「西脇東中学校・黒田庄中学校の統合校に係る活用施設の決定等について」を担当課から説明をお願いします。なお、今月11日に開催されました教育委員会臨時会において、統合活用校舎を西脇東中学校に決定したと聞いておりますが、統合校決定に至る説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

ありがとうございました。

公式の記録に載っていませんが、教育委員の皆さんには、いろいろな議論、また資料の読み込みや現場確認等々もしていただいたということの報告がありましたので、その部分につきましても御礼を申し上げます。

教育長の方から、教育委員会の臨時会での協議状況等について、追加の説明がありましたらお願いします。

○教育長

先ほどの説明と重なる部分もあるかと思いますが、私の方から臨時会の概要について、少し補足して報告をさせていただきます。

まず4名の委員から、それぞれの意見表明をいただきましたが、全員に共通していたのは、非常に重いものを感じながらの判断をした、重い決断であった、きわどい選択であったという言葉が印象に残っています。

また、両校の施設を再度見学に行つて現地調査を行つたり、周辺環境や施設の内部を細かいところまでご覧いただきました。そして、統合懇談会の協議や意向調査の結果等から、どちらの学校にも一長一短という言葉を使った委員もいましたが、いろいろな意見を聞き、協議をした中で判断したという意見も印象に残っております。

その中の地域意向調査において、当該地域の保護者や地域住民の方々、子どもの良好な教育環境確保が重要とされた視点に立って、2つの

学校をもう一度再検討して判断したという意見も複数ございました。

先ほど説明がありました通り、施設の安全性という言い方をされましたが、2つの学校の校舎の現状、そして周辺環境も含め、災害の恐れがある区域から、少しでも離れているような場所、または災害の恐れが少しでも少ないと思われる施設を選択すべきと考え、判断されたというご意見も含まれていました。

また、保護者の立場からという前置きの上、いじめや問題行動、生徒間のトラブルの発生等が市内の学校の課題や問題であり、それを想定すると、生徒に対する教員の目がより行き届く施設という視点を重視したという意見も出されました。

次に、施設活用の多様性についてですが、生徒の多様な学習形態や学びに対応できる施設であるかどうかという点から判断したという意見もありました。

学校規模という視点からは、学校規模の適正化に立ち返り、将来的には適度な広さ、適度な設備の確保をもって、施設活用の判断としたという意見もありました。

このように、それぞれの委員の視点で、地域の方が思っていることを想定しながら判断を下して、最終的な結論に至ったという意思表示であったと思います。重なる面も多かったと思いますが、報告とさせていただきます。

◎市長

ありがとうございました。統合の決定を受けて、今後、学校統合を進めていくにあたり、先ほどのご報告の他に、付帯意見等の報告をお願いしますでしょうか。

○教育長

採決が行われた後、各委員から意見としていただいた事柄について報告をします。意見として何項目かありますので、順番に述べていきたいと思っております。

学校の統合は、教育委員会だけでは成し遂げられないものであり、市全体で協力して進めていただきたいという意見がありました。

また、この統廃合の後、黒田庄中学校が活用されない学校となりますが、地域住民にとって有意義な活用場所となるよう、地域の活性化や避難場所としての活用も含めてお願いしたいというご意見もいただきました。

統合の推進にあたっては、将来への明るいイメージを大事にしながら、発信をして、進めていただきたいという要望でした。

教育のソフト面の充実を学力向上等につなげ、児童生徒にみずから考え、学ぶ力を十分に身につけてほしいというご意見もいただきました。

今回の統合を前向きにとらえ、西脇市が有する恵まれた自然や文化施設に、市内の子どもたちが触れる機会をたくさん増やして欲しいというご意見もありました。

また、これは私どもや地域住民へも向けた御意見かと思いますが、2つの地域が1つの統合校の校区となりますので、両地域の皆さんで統合校を支え、しっかりと守っていただきたいというご意見もいただきました。

以上の内容のご意見だったと思っています。

◎市長

ありがとうございました。貴重な御意見を伺いました。

西脇東中学校と黒田庄中学校の統合に関しては、教育委員会において、地域懇談会や、地域意向調査等を実施し、慎重な協議や調整を行っていただきました。本当にありがとうございました。

地域住民への説明会を実施した後、開校準備委員会を設置して、2校の学校統合を進めていただくこととなりますが、付帯意見として、特に市民にとって有意義な黒田庄中学校の今後の活用や、地域の活性化について考えてほしいというご意見をいただいたところです。

市としましても、学校統合後の黒田庄中学校の活用方法は、統合までの3年間、地元の皆さんのご意見も伺いながら、責任を持って調整を進めて参りたいと考えています。また、教育委員会の皆さんとも力を合わせ、学校の統合を進めるにあたり、児童生徒の教育環境の充実とともに、地域の活性化を図るため、全力で進めて参りたいと考えております。

以上で報告をいただいたことに対するコメントを終わります。なにか付け加えることはございませんか。

では今申し上げた通り、皆様方に重要な決定をいただいたことを踏まえ、市としても責任を持って対応させていただくということで、この議題を閉めさせていただきたいと思えます。

◎市長

次に、次第の3、その他です。何かありますでしょうか。

○教育長

今後の教育のビジョンや、ソフト面の話になるかと思いますが、西脇市の教育委員会が文科省の指定を受けているリーディングDXスクール事業の進捗等について報告があります。この週末にお越しになる方もありますので、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局

先ほど教育長からご紹介いただきましたが、今週の11月22日に文部科学省初等中等教育学校デジタル化プロジェクトチームリーダーの寺島史朗課長が西脇市にこられます。視察いただく学校は、西脇中学校、桜丘小学校、日野小学校です。

寺島課長は翌日の11月23日に、神戸市立なぎさ小学校で開催しているEスクールステップアップキャンプ2024神戸大会で基調講演をされると聞いています。

なおEスクールステップアップキャンプ2024神戸大会は2日開催になり、1日目の11月22日には、桜丘小学校の教職員が発表する予定です。

寺島課長が西脇市に来られる経緯としましては、GIGAスクール構想を牽引している東京学芸大学の堀田龍也教授が、ご講演の中で西脇市の学びの様子を画像として使用されたこと、また、夏休みの8月に東京で開催されましたリーディングDXスクール事業の学習会において、西脇中学校が発表を行った経緯があり、トップリーダーである寺島課長が西脇市に興味を持ち、来西することになりました。

またリーディングDXスクール事業は、研究発表が2学期、3学期で行われます。2学期につきましては、現在研究指定校となっている西脇中学校、日野小学校、西脇小学校の3校が、市内向けの研究発表を行い、3学期にはそれぞれの学校が全国に向けた発表を行う流れになっており、日々研究を進めているところです。

○教育長

今の件は小学校、中学校の話ですが、西脇工業高等学校も文科省に申請をして、DXハイスクールという国の指定を受けた採択校に入りました。西脇市は全国でも数少ない小中高の3校が、この研究に取り組んでいます。国の方もよく視察に来られます。

他の市町にもこういったDXに関して堪能な先生がいて取り組みを行っていますが、西脇市の特色は、計画的に横に広げて積極的に拡大充実を図っている点にあります。

一昨年は黒田庄中学校区、本年度は西脇中学校区ということで、徐々に対象となる学校を増やし、市の予算も投入し、南中校区、東中校区の先生方も、この研修に取り組んでいただいています。

高校でもそのような取組をしていただいております。この活動を縦横に広げようという取組が注目を集めて評価を受けている部分です。

もう1点説明をさせていただくと、西脇工業高校と西脇市が今年の6月25日に小中高連携に関する覚書を交わしまして、取組を進めています。

事例としまして、市内の小学校が 150周年の記念事業を行うにあたり、コルク製の円盤状の板に学校名や校舎の写真を、裏側には学校の校章などを入れて印刷をしています。このコースターは、西脇工業高校の実習室を使わせていただき、作っています。

大きな機械を覗き込んでいる子どもが写っていますが、工業高校ではレーザープリンターを何台も持っており、これを使って先生に指導を受けながらデザインを焼いている写真です。パソコンからデータを機械に送り込んで、両面に印刷を行います。また、このデザインの作成に当たってはPTAの方にご協力いただいております、全部で24種類のデザインの中から、子どもたちの投票により採用されたものが3種類あるそうです。

何を伝えたいかという、市内の小学校、中学校、高等学校が、縦の繋がりを大事にしなが、パソコンやドローンなど、小学生が興味を持ったさまざまな活動について、高校生や中学生と接しながら学ぶ意味を教えてもらっています。

逆に高校生は年少の子どもにいろいろなことを指導することによって、自分たちが役に立って嬉しい気持ちになり、自己肯定感を高めることにつながります。非認知能力という言葉をよく使いますが、体験や参画、市の課題に対して向き合うことなどの経験が、ひいては大きな主体的な学びとなり、自立して学ぶ姿勢を身につけていることにつながると考えます。いろいろな取組がありますが、教育委員から何かご意見があったら聞いていただきたいと思ひます。

○委員

DXの推進はこれから先の時代にとても大切だと思ひますが、それと反対で、私は人の手触りのあるものはすごく大切にしているの、自分の体で感じて作ること、実際に見ること、本物に触れることも、同時並行で必ず子どもたちには教えていただきたいと思ひます。

○委員

小学校、中学校、高校というのは、私の年代から比べますと、バラバラの組織であって、上に上がるごとに、下の年代との接触がなくなるような世界であると感じていましたが、この取組のように、どの年代ともつき合いができるということは、人の育成にはとても大切なことだと思ひますので、できるだけ広めていただきたいと思ひます。

○委員

小中高と連携しているのが、すごくいい機会だと思ひました。

人それぞれ興味のポイントは違ひますが、せつかくの機会なので、興味が湧く仕掛けをたくさん作っていただき、体験をしていただくのがよ

と思います。小さいことかもしれませんが、興味が湧いたことに、自ら学習し、学びを深めるということに繋がるのではないかなと思います。

○委員

D Xに関しても、小中高と連携して進めていっていただきたいと思います。それとは別に、コースターなどの体験を通して、子どもたちが西脇工業高校に行きたいと思うきっかけにもなりますし、ファッションショーを見て、ものづくりをしたい、播州織に触れたいなど、地元のを活用して子どもたちが成長していくのは、本当に嬉しいことだと思います。

西脇工業高校の陸上部の方が小学校へ走り方を教えに来てもらったときも、私の子どもは、早く走れるようになれそうと言っていました。リレー大会の前だったので、モチベーションも上がっていました。非認知能力が育っていく過程で小中高の連携が進むのは本当にありがたいことだと思いますので、これからももっともっと連携してほしいと思っています。

◎市長

ご意見ありがとうございました。

先日、別件で文部科学省に伺ったときに、寺島課長と今年の1月に講演していただいた前任の武藤課長がおられました。そのお二人が口をそろえておっしゃったのが、県立の高校と市立の小中学校がD Xで連携している事例は全国的にも聞いたことがないので、寺島課長は今回の視察に当たって1つの楽しみしていると言っていました。

小中学校のD Xについても、D Xを立ち上げてまだ日が経っていないのに急激に伸びていることで、文科省の中でも西脇市の名前が知られております。他の市町なら1人のトップリーダーの先生がいるのが普通ですが、西脇市の場合は、学校の先生方が一緒になっているいろんな勉強をして、小中学校がお互いにレベルを上げていくことに加えて高校とも連携しているのが、非常に理想的な活動であるという評価をいただきました。これは本当に現場の先生方が、お忙しい中でも研鑽を積んでいただいている結果だと思います。

それともう1点、委員からD Xだけじゃなくて、実体験による教育の充実についてお話がありましたが、文部科学省に行ったもう1つの理由は、先月5年ぶりに、横尾忠則さんがNHKのスタッフ8人ぐらいを連れて東京から帰省されました。NHKのスタッフに聞くと、NHKスペシャルという番組で、来年4月から放送する予定で1年かけて収録することでした。1人の美術家がゴールデンタイムに1年をかけて収録

して放送するというのは非常に稀なことです。

今年の6月ごろにお伺いしたときに、横尾先生から、新しいY字路も描いているので、新しい絵で西脇市の活性化に役立てたいというオファーをいただきました。そのとき申し上げたのが、西脇市は合併20周年になるので、先生のY字路は全て、旧西脇市のものなので、できたら旧黒田庄町のY字路も描いていただけませんかとお願いをしました。市の職員の皆さんには黒田庄町のY字路の写真を撮って地図に落とし、70ヶ所ぐらいの資料を作ってもらって、22日の夕食のときに先生に見ていただきました。2、30年前にY字路を描いたときと風景が変わっていますので、翌日の23日に旧西脇市と旧黒田庄町の方で、候補となりそうな場所を見て帰られました。具体的な話にはまだなっておりませんが、描いていただけるのではないかと期待しております。世界に冠たる横尾芸術を市としてもサポートできないかなと思っています。

横尾氏の御貢献は、市の文化面において、非常にありがたいことです。今の小中学校の児童生徒の中には、横尾忠則さんのことをあまり知らない人もいると思うので、地元の西脇市が産んだ世界的な芸術家で、唯一の名誉市民ですので、教育の場としては、1つのいい題材かと思っています。

D Xの話が芸術の話に変わってしまいましたが、D Xは 100年に1度の、教育現場の大きな転換点です。それと同じタイミングで、部活動の地域移行も、100年に1度の大きな転換点であり、大転換点が1度に2つ来ています。今日の神戸新聞の記事で、兵庫教育大学の森田教授が、教育は学校だけに任せるのではなく、地域でも子どもたちを育てるべきだというコメントが載っておりました。教育の大転換の時期ですので、教育委員の皆様におかれましても、ぜひ議論を深めていただければと思います。

教育長、他に付け加えることはありますか。

○教育長

教育の中身についての話が色々とお出しましたが、小中一貫教育の試行を今まさに進めています。

委員から先程、西脇工業高校の生徒から、走りの指導を受けた小学生のモチベーションが向上する話がありましたが、小中の連携の話について少し紹介します。

音楽会前の小学生が、中学生の合唱している様子を見学する機会があったそうです。中学生の音量やハーモニーを直接感じたことで、小学生の児童は、こんな中学生にいずれなるのだという思いで、これまでの練

習態度とは全然違う姿勢で、翌日から練習に取り組んだそうです。

その連絡を小学校の先生から中学校の先生にしたところ、中学生も小学生にしっかりと教えることができ、非常に満足し、もっと自分たちも上手にならないといけないと生徒が思ったようで、お互いに刺激しあい、お互いにWIN—WINの関係になったという事例がありました。児童生徒同士がいろいろな体験を通じて学ぶことは、非常に大きな教育効果があると、改めて感じました。

今そのような重要な機会が、幾つも生じています。また、実体験ができる教育資源が、市内にはたくさんあり、様々な体験をすることも含めて、これからの教育課程を考えたいと思います。

◎市長

ありがとうございます。

先日開催された西脇市人権教育研究大会において、こども園、小学校の先生方、幼児教育センターで構成される分科会の中で、こども園と小学校の連携について報告をされていたことについて、少しお伝えしたいと思います。これは黒田庄子ども園と楠丘小学校での取組であり、全国的に珍しい取組ということで、朝日テレビから取材を受けていました。こども園に通っていた子どもたちが、小学生になって成長している様子であるとか、小学校で通学するうえで引き続き気をつけないといけないことを互いの情報交換を通じて知ることができ、保育の大切さを確認できる内容となっていました。小中学校だけでなく、こども園と小学校の連携についても取り組んでいるという報告でした。他にございませんか。

○委員

先ほど横尾忠則さんの話をされましたが、今岡山県で、森の芸術祭が開催されています。県の中心から離れている北部地域で、イベントが開催されており、蜷川実花さんや、川内倫子さんの写真等、いろいろな現代アートを見ることができます。

西脇市には、自然がたくさんありますので、自然やアートを活用したイベントが開催しやすいと思っています。そのようなイベントの計画を進めていただきたいと思います。

○市長

ありがとうございます。

事務局から、先程の委員のご提案について何かございませんか。

○事務局

市全体でアートを盛り上げ、集客や観光に繋げるということについては検討段階ではありますが計画しているものがあります。文科省から補

助金が出る制度を活用し、アート・自然・播州織・食べ物など様々なものと、市内に数十ヶ所あるY字路を組合せ、芸術に触れるとともに、西脇市の活性化に繋がるような計画を進めています。

◎市長

発表するには至っていませんが、地域資源である横尾忠則さんと、教育と芸術を絡めて観光の活性化を考えており、国の制度を上手く活用できないかと、進めているところです。

他にありますか。よろしいですか。

では、特にないようですので、事務局から連絡をお願いします。

○事務局

今回の総合教育会議の開催予定は、決まっておられません。そのため、西脇市と教育委員会で、協議調整が必要になった際に、事務局で適時調整させていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

◎市長

それでは、これをもちまして、令和6年度第2回西脇市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

————— 閉 会 —————